

火災現場で身を守る大切な道具たち



北分署水槽車



南分署救助工作車



空気呼吸器

【空気呼吸器 くうきこきゅうき】

火事の場所とか、わるいガスがありそうな所で、消防士が必ずポンベを背おい、マスクをかぶり空気を吸う道具です。ポンベの中には空気がつまっていて、だいたい10分から15分ぐらい使えます。消防士が火事の場所などで使うととても大事な道具です。煙の中や有毒ガスが発生している場所で活動するときに使います。空気呼吸器のポンベの中には圧縮した空気が入っているから煙の中でも大丈夫。

【防火服 ぼうかふく】

火災の場所に着ていく防火衣は大変「火」に強く、燃えにくい素材（難燃性素材「なんねんせいそざい」）を使用しています。つまり、燃えにくいだけであって燃えないことはありません。ただ、みなさんが着ている服と比較すると、非常に燃えにくいものです。でも長い時間火災で燃えているところにいると、どんどん熱が中に伝わり熱くなりやけどをしてしまいます。そこで、火事の中に入っていくときは、自分たちの体を放水の水で冷やしたり、体をかがめて熱を受けにくくしたりする工夫などをして、長い時間活動できるようにしています。服装は、防火衣の上着とズボンにヘルメット、長靴、手袋を装備します。それでだいたい8～9kgになります。それに煙などで息ができない時に使う空気呼吸器（空気ポンベとマスク）が10kgくらい増えます。そのほかに無線機、照明器具などを持っていきます。



防火服

【ホース ほうす】

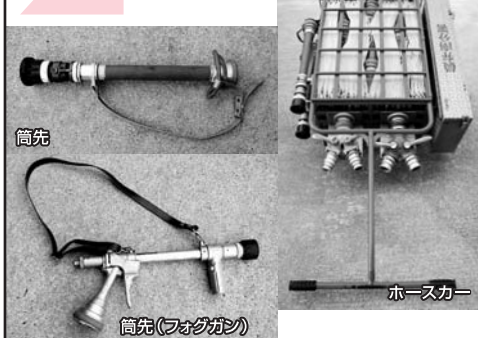
1本の長さは、20mです。これをつないで使い、場合によっては、10本(200m)以上のばすこともあります。1本のホースには約66リットルの水が入ります。



ホース

【ホースカー ほうすかー】

火災現場まで長い距離の場合ホースを延ばす時に使用します。



筒先

ホースカー

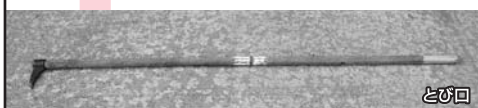
筒先(フォグガン)

【筒先 つつさき】

筒先という、火事の時、ホースにつないで水を出す道具です！この筒先は水の出し方や、水の出す量を変えることができるので、火災の規模や状況に応じていろいろ変えながら使用しています。

【とび口 とびぐち】

するどい先で火災の時に壁や屋根を破壊して消火活動の助けをする道具です。



とび口

【携帯無線機 けいたいむせんき】

携帯無線機には2とおりの使い方があります。本部や隊員同士の情報伝達の交信に使用します。



強力ライト

無線機

【強力ライト きょうりょくらいと】

夜間や煙の中で活動するときに使います。普通の懐中電灯より明るく、活動時の必需品のひとつです。また、隊員のヘルメットにはキャップライトを装着しています。



三連梯子

【三連梯子 さんれんはしご】

火事の場所で、2階や3階にいる人を助けたり、消火のために登ったりする道具です。この梯子を使って、クレーンのように人をつり上げたり、下におろしたりすることもできます。チタンでできている梯子（はしご）もあります。

問 桑名市消防本部 T 24-5273
 問 火災・救助災害情報案内(テレホンガイド) T 21-7777
 問 員弁庁舎 総務課 T 74-5805 F 74-5800